

⑪ 公開実用新案公報(U) 平3-80

⑫ Int. Cl.⁵

H 05 K 5/03
H 04 M 1/02

識別記号

Z 6835-5E
C 7925-5K

庁内整理番号

⑬ 公開 平成3年(1991)1月7日

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全2頁)

⑭ 考案の名称 電気機器の筐体

⑮ 実 願 平1-57762

⑯ 出 願 平1(1989)5月19日

⑰ 考 案 者 辻 一 秀 神奈川県川崎市高津区末長1116番地 株式会社富士通ゼネラル内

⑱ 出 願 人 株式会社富士通ゼネラル 神奈川県川崎市高津区末長1116番地

⑲ 代 理 人 弁理士 大原 拓也

⑳ 実用新案登録請求の範囲

(1) ケース本体とカバーとをほぼ半割り状に形成し、それらを組合わせてなる電気機器の筐体において、

上記ケース本体とカバーの突合せ端縁間には、その各端縁に係合する一対の溝を有する断面H形のゴムもしくは軟質合成樹脂からなるプロテクターが介在されていることを特徴とする電気機器の筐体。

(2) 上記プロテクターには、上記筐体の側面に沿って延在するグリップが一体的に形成されている請求項(1)に記載の電気機器の筐体。

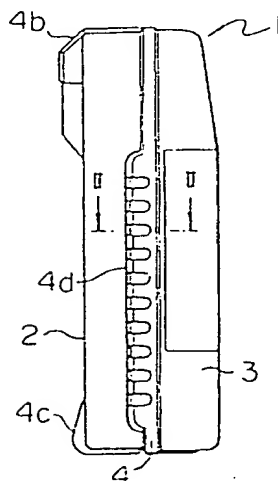
(3) 上記プロテクターには、上記筐体の前面もしくは背面側を部分的に覆うカバー部分が一体的に形成されている請求項(1)に記載の電気機器の筐体。

図面の簡単な説明

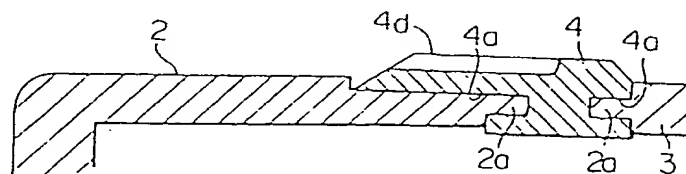
第1図はこの考案が適用されたコードレス電話機の側面図、第2図は第1図のII-II線断面図、第3図は第1図に示されているプロテクターの正面図、第4図は同プロテクターの側面図である。

図中、1は筐体、2はケース本体、3はカバー、4はプロテクターである。

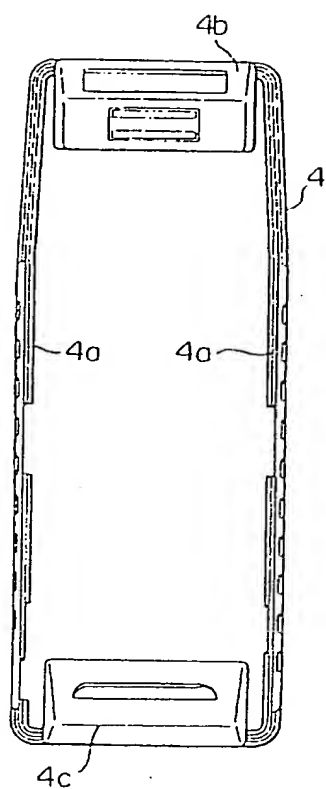
第 1 図



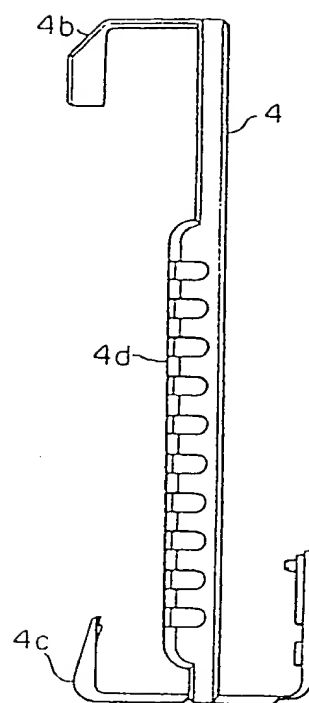
第 2 図



第 3 図



第 4 図



公開実用平成 3-80

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報(U)

平3-80

⑫ Int.Cl.⁵

H 05 K 5/03
H 04 M 1/02

識別記号

Z
C

庁内整理番号

6835-5E
7925-5K

⑬ 公開 平成3年(1991)1月7日

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全 頁)

⑭ 考案の名称 電気機器の筐体

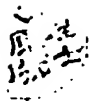
⑮ 実 願 平1-57762

⑯ 出 願 平1(1989)5月19日

⑰ 考 案 者 辻 一 秀 神奈川県川崎市高津区末長1116番地 株式会社富士通ゼネラル内

⑱ 出 願 人 株式会社富士通ゼネラル 神奈川県川崎市高津区末長1116番地

⑲ 代 理 人 弁理士 大 原 拓 也



明 細 書

1. 考案の名称

電気機器の筐体

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) ケース本体とカバーとをほぼ半割り状に形成し、それらを組合せてなる電気機器の筐体において、

上記ケース本体とカバーの突合せ端縁間には、その各端縁に係合する一対の溝を有する断面H形のゴムもしくは軟質合成樹脂からなるプロテクターが介在されていることを特徴とする電気機器の筐体。

(2) 上記プロテクターには、上記筐体の側面に沿って延在するグリップが一体的に形成されている請求項1に記載の電気機器の筐体。

(3) 上記プロテクターには、上記筐体の前面もしくは背面側を部分的に覆うカバー部分が一体的に形成されている請求項1に記載の電気機器の筐体。

3. 考案の詳細な説明

公開実用平成 3— 80

〔産業上の利用分野〕

この考案は電気機器の筐体に関し、さらに詳しく言えば、携帯用無線機やコードレス電話機などに好適な電気機器の筐体に関するものである。

〔従来の技術〕

コードレス電話機を例にとつて説明すると、この種の筐体は大体において、送話器、受話器および回路基板が内蔵されるケース本体と、そのケース本体に被せられるカバーとから構成されているが、ケース本体とカバーはほぼ半割り状に形成されていて、それらは例えばネジにて互いに組合せられるようになっている。

〔考案が解決しようとする課題〕

携帯用無線機やコードレス電話機などは、その性質上手に持って使用されるため、落下などによる衝撃を受ける機会が多く、それだけ筐体が傷付き易い。また、例えば屋外での使用中に雨水に晒されると、筐体の合せ面から水が浸入し、内部の電気部品が故障するおそれがある。

〔課題を解決するための手段〕

上記課題を解決するため、この考案においては、ケース本体とカバーとをほぼ半割り状に形成し、それらを組合せてなる電気機器の筐体において、ケース本体とカバーの突合せ端縁間に、その各端縁に係合する一対の溝を有する断面H形のゴムもしくは軟質合成樹脂からなるプロテクターを介在させたことを特徴としている。

〔作 用〕

例えば、落下時の衝撃はある程度ケース本体とカバーの突合せ端縁間に介在されているプロテクターの弾性によって吸収されるため、同プロテクターによって筐体が保護される。また、雨水などの浸入も同プロテクターによって阻止される。

〔実 施 例〕

以下、この考案の実施例を添付図面を参照しながら詳細に説明する。

第1図にはコードレス電話機の例が示されている。すなわち、この電話機の筐体1は、ほぼ半割り状に形成されたケース本体2と、それに被せられるカバー3とからなるが、それらの突合せ端縁

間には、ゴムもしくは軟質合成樹脂からなるプロテクター4が介在されている。

第2図に示されているように、このプロテクター4は、ケース本体2の端縁2aとカバー3の端縁3aにそれぞれ係合する一対の溝4a、4aを有する断面H形に形成されている。第3図および第4図に示されているように、このプロテクター4は、筐体1の合せ面全周を囲繞するように形成されているが、この実施例によると、同プロテクター4には、耐衝撃性と外観向上を意図した受話器側のカバー部分4bおよび送話器側のカバー部分4cと、筐体1の側面に当てがわれ主としてグリップ性および外観向上を意図したグリップ部分4dとが一体的に形成されている。

なお、ケース本体2とカバー3はそれらの間にプロテクター4を挟んだのち、例えばネジなどにより一体的に結合される。

〔考案の効果〕

以上説明したように、この考案によれば、ケース本体とカバーの突合せ端縁間に弾性材料からな

るプロテクターを介在させたことにより、落下時などの衝撃はある程度その弾性によって吸収されるため、同プロテクターによって筐体が保護される。また、雨水などの浸入も同プロテクターによって阻止される。さらには、同プロテクターに意匠上の効果を持たせることにより、製品の個性化などが図れる。

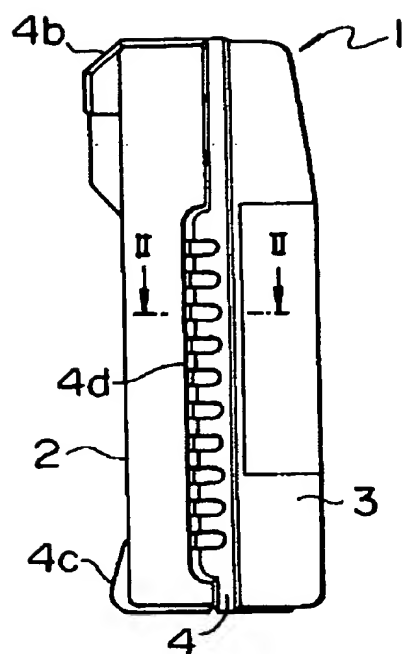
4. 図面の簡単な説明

第1図はこの考案が適用されたコードレス電話機の側面図、第2図は第1図のII-II線断面図、第3図は第1図に示されているプロテクターの正面図、第4図は同プロテクターの側面図である。

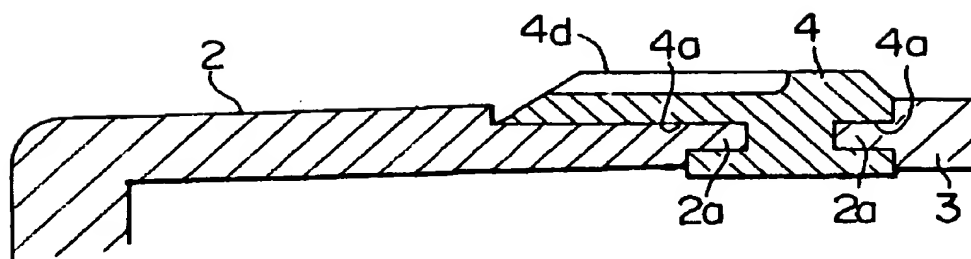
図中、1は筐体、2はケース本体、3はカバー、4はプロテクターである。

実用新案登録出願人 株式会社富士通ゼネラル
代理人 弁理士 大 原 拓 也

第 1 図



第 2 図



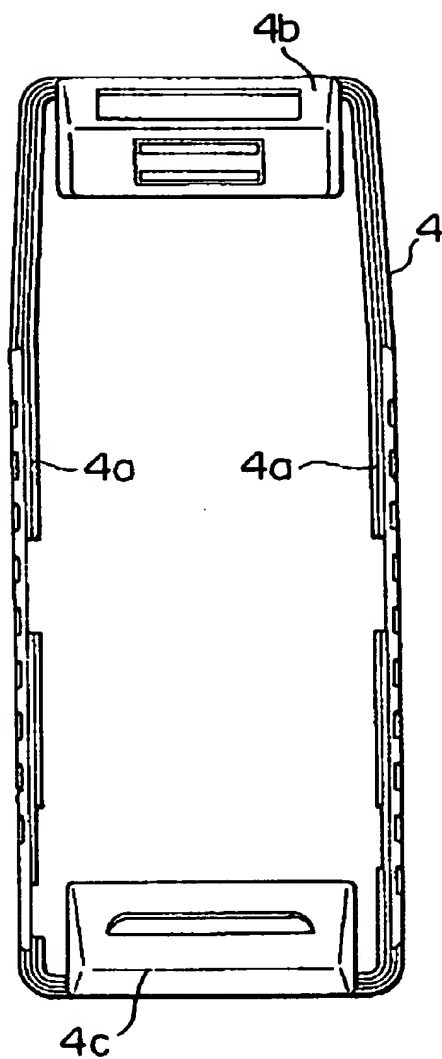
787

実用新案登録出願人 株式会社 富士通ゼネラル

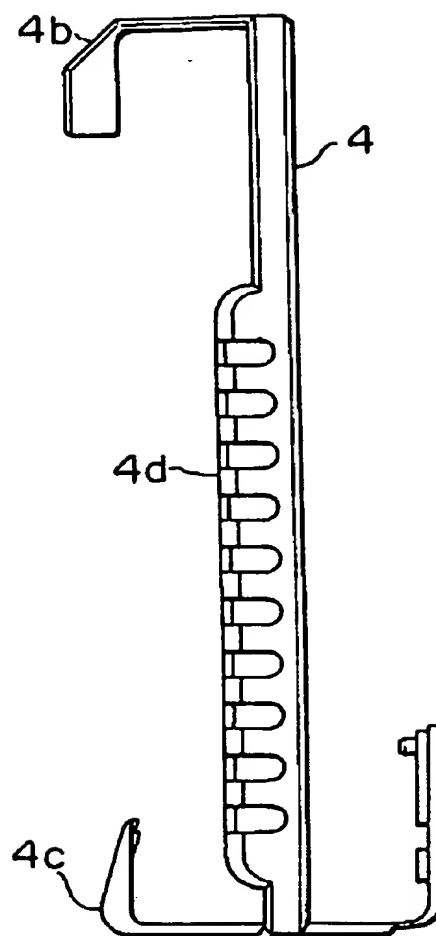
代理人 弁理士 大原 拓也

実用 3 - 80

第 3 図



第 4 図



788

実用新案登録出願人 株式会社 富士通ゼネラル

代理人 弁理士 大原 拓也

実開 3 -